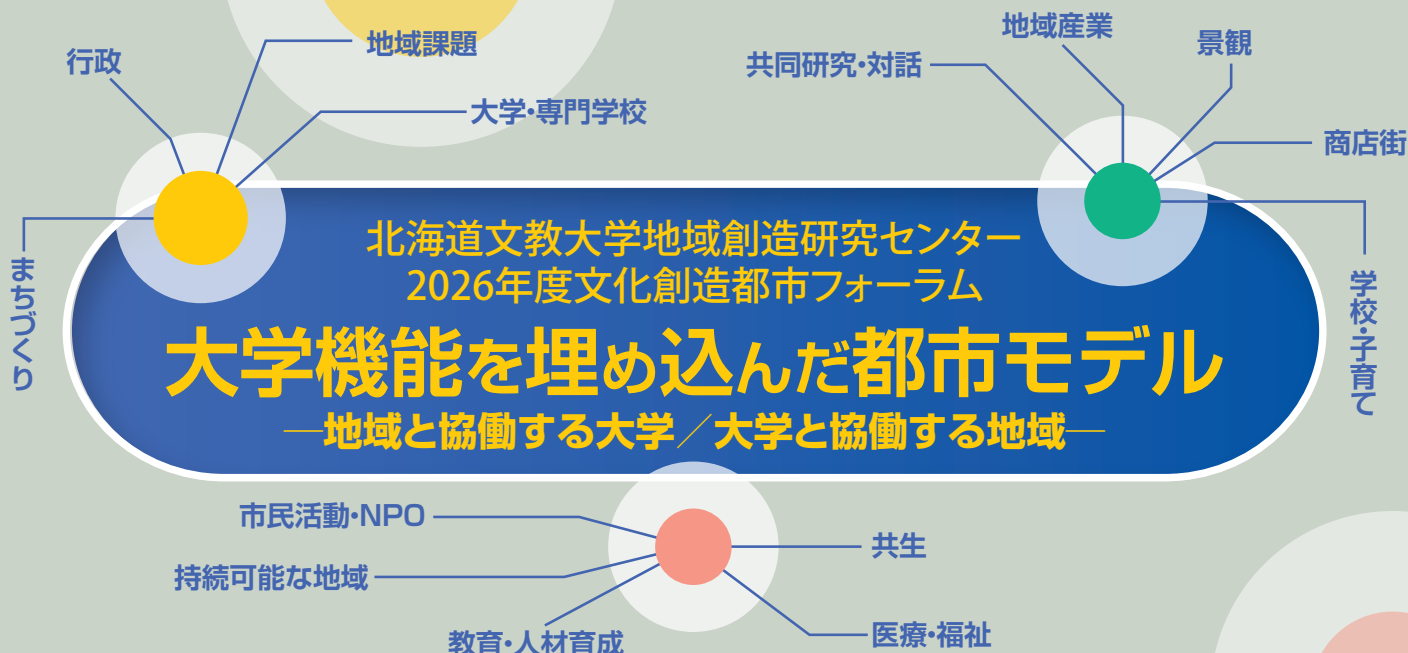




地域創造研究センターは「大学機能を埋め込んだ都市モデル」の構築を使命に掲げ、恵庭市内外の広範な実践者との共同研究を推進する拠点となることをめざしています。本フォーラムは、人口減少時代における持続可能な地域づくりのために求められる大学の在り方を問うとともに、淘汰の局面を迎えた私立大学の方向性を探ります。

2026年 **10月25日(日)** 14:00～17:00

会場 北海道文教大学 鶴岡記念講堂大ホール(恵庭市黄金中央5丁目196番地の1)
対象 道内高等教育の関係者、地方行政の関係者など
参加費 無料/要申込 お申込URL:<https://forms.gle/HmAXo34zEGsqbmia>



↑お申込はこちらから

タイムスケジュール

- 14:00～ 開会挨拶(北海道文教大学 学長・玉井 康之)
14:10～ 基調講演「地方私立大学の命運は自治体が握っている
『崖っぷちの私立大学』の取材で実感したこと」
増谷 文生(朝日新聞社 教育シニアエディター)
14:40～ 事例報告①「まちづくりと高等教育機関」
田中 哲(八戸学院大学地域共創学部 学部長・教授)
15:10～ 事例報告②「地域と大学をつなぐ先進事例
—連携に向けた機能と展望—」
松田 祐(北海道文教大学地域創造研究センター センター研究員)

<休憩 15分>

- 16:00～ パネルディスカッション「地域に大学があることの意味を問う」
パネラー ●増谷 文生(朝日新聞社) ●田中 哲(八戸学院大学)
●原田 裕(恵庭市長) ●玉井 康之(北海道文教大学)
●松田 祐(北海道文教大学)
ファシリテーター●宮崎 隆志(北海道文教大学)
16:45～ 閉会挨拶(恵庭市長・原田 裕) ※敬称略

主催/北海道文教大学 地域創造研究センター
共催/恵庭市
後援/朝日新聞社

お問合せ先 北海道文教大学 地域創造研究センター
TEL: 0123-21-8836 MAIL: crc@do-bunkyo-dai.ac.jp

基調講演

地方私立大学の命運は自治体が握っている

『崖っぷちの私立大学』の取材で実感したこと

増谷 文生 (朝日新聞社)

18歳人口が100万人を切る「2035年の崖」が迫り、地方私立大学の多くは学生確保に苦しんでいます。今後の鍵は自治体との連携です。朝日新書『崖っぷちの私立大学』で取り上げた「先進地域」の実情などを紹介します。

事例報告①

まちづくりと高等教育機関

田中 哲 (八戸学院大学)

人口減少等の地域課題に高等教育機関がどう関わるかについて、八戸市内4校が市と連携し調査研究と提言を実施した「八戸市都市研究検討会」、産学官で地域での事業を展開する「八戸産学官連携推進会議」など八戸市の事例と共に紹介します。

事例報告②

地域と大学をつなぐ先進事例 —連携に向けた機能と展望—

松田 祐 (北海道文教大学)

厳しい経営環境にある地方大学が取り組む、多様な地域連携の事例を紹介します。特に大学と自治体双方の視点から「地域連携」を紐解きながら、これからの地域と大学の新しい関係性を探っていきます。



増谷 文生

(朝日新聞社 教育シニアエディター)

1971年、栃木県出身。1994年に朝日新聞に入社し、長く大学を中心に教育取材を担当。26年から現職。



田中 哲

(八戸学院大学地域共創学部 学部長・教授) 1956年、静岡県出身。八戸学院大学教授。専門の「まちづくりの会計学」を活かし、八戸市でまちづくり活動を実践している。



原田 裕

(恵庭市長) 北海道出身。北海道議会議員4期を経て、2009年に恵庭市長に初当選。市民との協働によるまちづくりを進め、現在5期目。



玉井 康之

(北海道文教大学 学長) 香川県出身。へき地教育を専門とし、北海道教育大学で釧路キャンパス長・副学長などを歴任。2026年から現職。



松田 祐

(北海道文教大学地域創造研究センター研究員) 1991年、北海道出身。民間企業を経て2018年に北海道文教大学入職。2023年のセンター設立より現職。専門は公共政策と高等教育。



宮崎 隆志

(北海道文教大学地域創造研究センター長) 1958年、大阪府出身。専門は地域社会教育学。コミュニティ・ストーリーの集団的編集実践の分析を進めている。